

2017年度群馬県卓球ベテラン会総会（議事録）

期日：平成29年5月28日（日）15時～17時

会場：みなかみ 上牧温泉 辰巳館

出席者：針谷正紀、高見澤隆、都野 實、市川 英、村田 隆、若林孝範、佐々木修一
小林公子、高橋茂樹、岩井孝夫、長南秀雄、大貫千都子、高野和人、坪井徳一
山中義夫、小倉幸子、相崎素子、市村順子、大澤正道、栗原和子、谷川一夫
田中 猛、青山博幸、清水賢次、武藤友美、吉田千香、高井和義、飯塚まさ江
石倉千恵子 以上29名

次第

司会 若林孝範事務局長

1、開会の辞：高見澤 隆 副会長

2、会長挨拶 針谷正紀会長

群馬県卓球ベテラン会は、昨年で50年を経過いたしました。

私も当会の運営に携わり40年を経過し、元祖日本卓球ベテラン会の運営方式を手本にこの間、各種大会を主催し参加人数も増加して来ましたが、前年度は初めて約200名減少しました。当会では、参加選手の意見を尊重し運営方式の改善・試合数を多くするようにに努めて来ました。近年では他競技団体が開催する大会も増加しています、群馬県卓球ベテラン会の改善に努め今後の運営方法等についても、皆様のご意見をお聞かせいただき、可能な限り取り入れていきたい。

3、議長選出：「議長」若林事務局長

4、議事

(1) 2016年度事業報告 村田隆理事長

・2017年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

大会数11、大会会場：藤岡市民体育館5回、ALSOKぐんまアリーナ5回、浜川体育館1回
参加人数：S 2,622名 D 764組 熊本地震等カンパ：243,481円

(2) 2016年度収支報告 小林公子会計担当理事

・2017年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

収入：1,658,096円 支出：979,301円 繰越：678,795円

(3) 2016年度会計監査報告 高橋茂樹監査

・2017年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

(4) 2017年度事業計画案 村田隆理事長

・2017年度群馬県卓球ベテラン会総会議案書による

① 大会数は11大会 大会以外の諸行事5回

大会会場：藤岡市民体育館5回、ALSOKぐんまアリーナ2回、高崎浜川体育館2回
ヤマト市民体育館(旧.前橋市民体育館)2回

② 大会会場の確保に苦慮している。大会日程は日曜日を主体として計画・申請するが各種体育館調整会議で他競技団体とバッティングしている。そのため 結果的に祝日2回、土曜日4回、日曜日5回の開催となった。

③ ALSOKぐんまアリーナは、前年度5回であるが今年度は2回の取得となり前橋

ヤマト市民体育館 2 回確保した、藤岡市民体育館以外の高崎浜川・ヤマト市民体育館は、地元競技団体が優先され日曜日の取得は難しい。

- ④ 新設：高崎アリーナの取得も難しい、また、駐車料金が発生する。
駐車料金は 1 日約 800 円、城南球場駐車場を利用しシャトルバス(200 円)利用する方法があるが大変である。
- ⑤ 大会時のコート割りは、男子種目の若年種目より順次 1 コートからコート割りを
行い、大会会場の使用状況(トイレ等の設置場所)によりコート番号を付す。
- ⑥ 大会日程の計画は、毎年実施されている他団体の大会日程を考慮して計画する。
先に実施された、第 31 回マスターズ大会(5 月 5 日)と館林市が主催する「つつ
じ杯」(5 月 7 日)が接近しているとの指摘があった。
マスターズ大会は当初 5 月 14 日 ALSOK ぐんまアリーナを計画したが、高校総体
(卓球)とバッティングし 5 月 5 日藤岡市民体育館となった、次年度から連休を
避け大会日程を計画する。
- ⑦ 大会以外の事業計画では、11 月 12 日(日)秋季理事会の会場が未定であるが、藤
岡市総合学習センターを予約したい。
1 月 28 日冬季理事会・新年会は、今まで使用した「高崎ビューホテル」が今年
いっぱい営業となり、ホテルナガイを計画した。
高崎駅周辺での設営会場(会費 6,000 円程度)があれば、紹介してほしい。

- (5) 2016～2017 年度役員について(補充) 針谷正紀会長
今年役員改選の年では有りませんが、新役員として、高井和義・熊谷俊秀
・飯塚まさ江・石倉千恵子の 4 名を補充する。

5、討議

- (1) 主催・主管大会をどう魅力的なものにしていくか

①第 5 回全国ベテランオープン卓球ぐんま大会について

- ・例年、参加選手に支給する「前橋の天然水」が、本年度より前橋市補助申請を行う
大会のみ前橋市より支給される。
よって今年度は久しぶりに前橋市へ大会補助申請を行う。

② 5 回の強化リーグ大会について

- ・新年理事会で討議した S 級リーグ(50 歳未満・65 歳未満・65 歳以上)上位者による
7 名リーグは、65 歳以上の競技力と 50 歳未満の競技力に差があるため現実的でない。
提案があった S 級リーグは、新設しない。
65 歳未満・65 歳以上の選手で競技力の高い選手は、本人の選択により年齢基準より
若い種目にエントリーしていただく。
- ・強化リーグでリーグ戦後のトーナメント方式については、ALSOK ぐんまアリーナで実施
できる時に検討する。現状の 36 台大会運営では競技時間が増え無理である。
- ・強化リーグの組合せで、男子 65 歳以上が毎回参加される選手が多く、組合せに苦慮
される場合は、A の上に S リーグを設けて組合せを行う。

③強化リーグ大会以外の大会について

- ・ダブルス種目で最近では、参加チーム全組をトーナメント(決勝・コンソレ)に参加できる
よう組合せを行っているが、大会会場の卓球台数により時間制約が発生する。

7月1日に実施される関東オープンベテランの大会会場は、ヤマト市民体育館(39台)であるが、参加ペア数により決勝トーナメントへの出場枠を上位2ペアとする。

下位のコンソレーションは、行わない。その他の大会も大会会場により対応する。

(2) その他

①参加賞について

- ・参加賞の賞品を、お茶等の飲料水にして欲しい。
以前にお茶の支給を行ったが、飲料後のペットボトルを大会会場に放置する数が多く支給を止めた経緯がある。
 - ・大会運営費を節約するため、参加賞の支給を止める。
大会参加費2,000円を頂いているため、参加者全員への参加賞支給を継続する。
 - ・大会入賞者への賞品代を減らし、参加賞の品質を上げる。
大会入賞者への1位・2位・3位の較差を考慮しており、現状を維持したい。
- 参加賞については、今後の課題として検討する。

6、日本卓球ルールについて 若林事務局長(審判長)

卓球ルールは、基本ルールと競技ルールで構成されている。

(1) リーグ戦の記録

①リーグ戦の記録は、勝敗でなく得点で計算する。

- ・試合得点は勝者2点、敗者1点で計算する。
- ・棄権勝ちの場合はWを付し2点、棄権負けはLを付して0点とする。
- ・2者間が同率の場合は、2者間の対戦で勝者が上位
- ・3名以上が同率の場合は、3者間の対戦結果を抜き出し、試合得点を比較する。
- ・勝率が同じ場合は、本部へ対戦結果を持参してください再確認をいたします。

②日本卓球ルール2017(平成29年)

平成29年1月1日に一部改正された。

・サービス

1.6.1 手のひらを「平らにし」が、手のひらを「開き」に改正

・アドバイス

2.5.1.3 競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。

※競技に遅延をきたさなければアドバイスをすることは違反ではありません。

○総会開催時間にて終了する、詳しくはホームページにて閲覧してください。

7、閉会の辞 都野 實 副会長